

第 383 回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《 プ ロ グ ラ ム 》

日時：平成 29 年 9 月 9 日（土）午後 15 時 20 分
会場：ANA クラウンプラザホテル新潟 2F 芙蓉東
新潟市中央区万代 5-11-20 TEL:025-245-3333

次回 第 384 回新潟地方会予告

日時：平成 29 年 12 月 9 日（土）午後 3 時

会場：未定

演題申込期限：平成 29 年 11 月 17 日（金）

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784

会長 富田 善彦

1. 碎石位がとれず治療に難渋した膀胱癌の1例

佐渡総合病院 泌尿器科

室岡和樹、池田正博

症例は 84 歳男性。肉眼的血尿を主訴に初診した。軟性膀胱鏡で右尿管口外側に乳頭状腫瘍を認めた。経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT) を試みたが、小児期の骨髓炎により両側股関節が固着し碎石位はとれなかった。仰臥位に準じた体位で行うも硬性鏡は膀胱内に到達不能であった。側臥位かつ患者背側よりアプローチすることで可動制限は高度であったが、かろうじて TURBT を完遂することができた。若干の文献的考察を加え報告する。

2. 右腎動脈瘤に対して行った自家腎移植の1例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

長谷川素、信下智広、黒木大生、田崎正行、中川由紀、齋藤和英、富田善彦

【症例】47 歳男性【現病歴】2016 年 6 月、近医にて高血圧精査の CT で 20 mm 大の右腎動脈瘤を指摘。同年 10 月に自家腎移植目的に当院へ紹介。【治療経過】2016 年 12 月、体腔外で右腎動脈瘤切除及び血管再建後、自家腎移植を施行し、術後 18 日で退院した。術前の血清 Cr は 0.79mg/dL、腎シンチは左 47%、右 53%、術後 6 か月では Cr 1.09mg/dL、腎シンチは左 87%、右 (移植腎) 13%であった。【考察】移植腎機能の低下は認めしたが、総腎機能は保たれており、動脈瘤破裂のリスクを回避できる有効な治療法と考えられる。

3. 子宮頸癌に対する放射線治療後に発生した肉腫様形態を伴う浸潤性膀胱癌の一例

新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、消化器外科²⁾、病理診断科³⁾、放射線診断科⁴⁾、新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科⁵⁾

乾幸平¹⁾、中川由紀¹⁾、佐藤洋²⁾、長谷川剛³⁾、池田洋平⁴⁾、西山勉¹⁾、富田善彦⁵⁾

72 才女性が尿閉、両側水腎症の精査目的で 2017 年 1 月に紹介受診した。33 歳時に子宮頸癌で、子宮摘除、放射線治療を受けていた。CT、MRI で膀胱癌、S 状結腸・小腸・骨盤浸潤を疑い、膀胱鏡では石灰化を伴う膀胱腫瘍を認めた。生検で肉腫様形態癌の診断であった。4 月に膀胱全摘除術、回腸・結腸切除、人工肛門、回腸導管造設術を行なった。摘出標本は肉腫様形態を伴う浸潤性膀胱癌で周囲の繊維化を伴い放射線治療後の影響が疑われた。

4. 陰嚢内への膀胱、尿管の脱出を伴った膀胱ヘルニアの一例

県立がんセンター新潟病院 泌尿器科¹⁾、同 消化器外科²⁾

風間明¹⁾、斎藤俊弘¹⁾、武田啓介¹⁾、小林和博¹⁾、谷川俊貴¹⁾、峠弘治²⁾、高野可赴²⁾

症例は75歳男性。2011年に前立腺癌 cT1cN0M0 に対して外照射施行後、経過観察中であった。2017年5月、左陰嚢の腫脹と排尿障害を訴えたためCTを施行したところ、左尿管と膀胱の一部が陰嚢内に脱出しており、膀胱ヘルニアによる症状と考えられた。同年6月26日に消化器外科と合同で全身麻酔下に膀胱ヘルニア修復術を施行した。術後経過に問題はなく、術後8日目に退院した。退院時には排尿障害も軽快しており、術後3ヶ月時点のCTでも再発は認めていない。

16:00~16:40

座長 星井達彦

5. 非典型的画像所見を呈する後腹膜腫瘍3例

長岡赤十字病院 泌尿器科

山崎 裕幸、鈴木 一也、米山 健志

今回我々は非典型的画像所見を呈する後腹膜腫瘍3例を経験した。いずれも画像検査で組織型の類推は可能であったものの、悪性腫瘍の否定が難しく、確定診断のために外科的切除を選択した。病理診断はそれぞれ48歳男性 Castleman 病、67歳男性 Ganglioneuroma、53歳男性 Myelolipoma であった。特徴的な画層所見、診断のポイントを含め報告する。

6. 鼠径ヘルニア術後8年、膀胱内迷入をきたしたガーゼオーマの1例

長岡中央総合病院 泌尿器科¹⁾ 同 外科²⁾

白野侑子¹⁾、山口峻介¹⁾、高橋英祐¹⁾、照沼正博¹⁾、河内保之²⁾

症例は70歳男性。主訴は肉眼的血尿。初診時の検尿で血膿尿。LVFX500mg 内服にて肉眼的血尿は消失するも膿尿の改善は全く認めなかった。

受診から4ヵ月後、膀胱鏡で膀胱前壁右側に透明なメッシュと水色の結紮糸を確認。鼠径ヘルニア術後メッシュの膀胱内迷入の疑いと診断した。当院外科にて鼠径ヘルニアメッシュ摘出術、膀胱部分切除術を施行。摘出標本からメッシュとガーゼが出てきたため、ガーゼオーマと診断した。

7. 尿路感染症による高アンモニア血症から意識障害をきたした1例

新潟県立中央病院 泌尿器科

安藤嵩 中山亮 水澤隆樹 片桐明善

症例は89歳女性。今年4月、原因不明の高アンモニア (NH_4) 血症による意識障害として当院内科へ入院、保存的治療で改善していた。6月、再度意識障害をきたし当院へ救急搬送され、尿路感染症による高 NH_4 血症 ($200 \mu\text{g/dL}$) の診断で当科入院となった。尿道カテーテル留置・抗生剤投与で高 NH_4 血症・意識障害は速やかに改善した。尿道カテーテル留置での排尿管理とし、症状の再発無く経過している。尿培養結果は *Aerococcus urinae* であった。尿路感染症による高 NH_4 血症について、若干の考察を交えて報告する。

8. ロボット支援下腎部分切除術におけるプロジェクションマッピングの応用

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

信下智広、山口峻介、丸山亮、山名一寿、笠原隆、原昇、富田善彦

ロボット支援下腎部分切除術は、2016年4月より保険適応となり、当院でも同年11月に1例目を施行した。適切なポート位置決定のために、画像解析ソフト『OsiriX』を用いて、血管走行、内臓の位置関係を体表に投影し、体表から内臓へとレンダリングすることで、ポート位置を決定している。現在まで3例に対して施行しており、必要な道具、施行方法、問題点について発表する。

[休 憩 16:40~17:00]

第383回日本泌尿器科学会新潟地方会

サテライトセミナー

日時：平成29年9月9日（土） 17:00 ～ 18:25

会場：ANAクラウンプラザホテル新潟 2F「芙蓉東」

17:00～17:10

【製剤紹介】 骨粗鬆症治療剤「リクラスト点滴静注液5mg」

旭化成ファーマ株式会社

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科

腎泌尿器科病態学・分子腫瘍学分野 教授 富田 善彦 先生

17:10～17:25

【一般演題】

「泌尿器科領域における骨粗鬆症治療剤ゾレドロン酸の使用経験」

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科 助教 山名 一寿 先生

17:25～18:25

【特別講演】

『小児尿路感染症の診断と治療—Up to Date 2017—』

新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学

教授 齋藤 昭彦 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

旭化成ファーマ株式会社

講演会終了後に意見交換会をご用意しております。